

ぶらっとサロン椿通信 令和3年2月増刊号

今号の椿 紅荒獅子(こうあらじし)



報告:有楽齋

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、昨年3月10日から自粛し**現在休業中**です
本年発行よりタイトルに『椿』を加えました(有楽齋)

南北に長い日本の国土に分布する野生のツバキの仲間(ツバキ属)は、大きく分けて4種あり、日本産のツバキの園芸品種は、すべてこれらが母体となっています。**北限のツバキ「ヤブツバキ」「ユキツバキ」「サザンカ」「ヒメサザンカ」の4種**となります。

※「リンゴツバキ」はヤブツバキの一種。「ユキバタツバキ」はユキツバキの亜種(異種)。「オキナワサザンカ」及び「ハルサザンカ」はサザンカに含む。
新装版日本の椿花園芸品種1000 淡交社刊 横山三郎・桐野秋豊より



原種 藪椿 ヤブツバキ/上左 Camellia japonica

日本の原種で海岸や山地に普通に見られる野生のツバキ花は紅色でまれに白色。一重 筒〜ラッパ咲き 中輪 筒しべが多いが 稀に葯が退化して侏蕊になると花は小さくなる 花びらの基部は雄しべとの接合部が長くユキツバキのように花びらが開かない ◎武家時代には竹槍用の竹の節をなめらかに育てるため、ツバキを遮光用の垣根にしたことからヤブツバキの名が現れたという

ヤブツバキ(白梅蕊)/上右 Camellia japonica

ヤブツバキの 白色・梅蕊のもの。白色 一重 碗咲き 梅蕊 小〜中輪

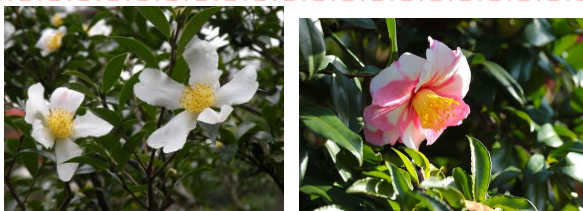


原種 ユキツバキ/上左 Camellia rusticana

日本の原種で 日本海側の気候、風土に順応して雪国にだけ分布。結実は稀で 倒伏した枝から発根して新しい株をふやす。花は朱紅〜紅色。一重で平開咲き 花びらは細長く 雄しべとの接合部が小さい。雄しべの花糸は黄色くユキ蕊。自生地では 株ごとに花色、花形が異なる ◎地質時代の氷河期の寒さの中 雪の下になって保護され生き残った祖先につながる 古い系統のツバキと考えられている

シロユキツバキ/上右 Camellia rusticana

白色 一重 ユキ蕊



サザンカ(山茶花)/上左 Camellia sasanqua Thunb

花は白色。学名の種小名もサザンカで日本の固有種。垂直分布は九州南部や奄美大島では海辺から自生し、屋久島では海拔900mにも及ぶ。おもな園芸品種はサザンカ群、カンツバキ群、ハルサザンカ群の3つの品種群に分かれる。

ハルサザンカ絞笑顔(しほりえがお)/上右

C.x vernalis 'Shibori-egao'

濃桃色地 白斑入り 八重 筒しべ 中〜大輪



ヒメサザンカ(姫山茶花) Camellia lutchuensis T.Ito

花は、白色で有香。名の印象からはサザンカの小型種と思われるが、サザンカではなく、別の仲間(ヒメサザンカ節)。近縁種は台湾にもある。琉球列島の固有種で照葉樹林内に散在し、幹は褐色で直立して高さ6〜7m。花径は小さく2〜3cm。花には短い柄があり、各葉のわきに1〜2個ずつ花をつけ、多花性。ウメの花のような香りがある。

※lutchuensis = ルチェンシス